

提出原稿作成の手引き

『季刊 経済理論』編集委員会

原稿および提出方法

1. 完成原稿をご提出ください

印刷費用の多くは組版に費やされます。とくに校正段階での修正は、手間がかかるばかりか印刷コストを上昇させ、ひいては本誌の持続的な刊行にとって大きな負担ともなりかねません。執筆者の方々にはこの点を十分に理解され、完成原稿をご提出くださるようお願いいたします。

校正で大幅な訂正を加えられた場合には、これに要した費用の負担をお願いすることがあります。予めご承知おきください。

ただし、編集委員会が掲載を決定した時点以降の書き換えは字句訂正等を除き基本的にはご遠慮ください。

2. ご提出いただく原稿の書式と提出方法

(1)原 稿

原稿は電子データ (Microsoft Word を用いてください。Text データにする必要はありません) で作成し、フロッピーディスクと出力原稿をご提出ください。

なお、論文、研究ノートなどについては、執筆者のローマ字表記、英文によるタイトルおよび英文によるキーワード3点、英文によるサマリー (論文の場合は300~600 words 以内、研究ノートなどについては200~400 words 以内) を、書評の場合は、評者のローマ字表記を、必ず添えてください。以上は、できるだけ原稿と同じフロッピーディスクに収録してください。

(2)書式設定

すべて A4 版縦置き、10.5 ポイント活字、横組みに設定してください。

論文、研究ノートなどの場合は原稿1頁あたり23字×45行 (組みあがり半頁分)、または46字×45行 (組みあがり1頁分)、

書評の場合は原稿1頁あたり24字×45行 (組みあがり半頁分)、または48字×45行 (組みあがり1頁分)、

に書式を設定してください。

(3)制限頁数

論 文

組みあがり12頁以内。タイトル・執筆者名を除き、23字×1064行 (46字×532行)。ただし、節見出しは3行 (20字以上は4行)、項見出し (22字以内) は2行と計算してください (図表、数式・行列については別に記載)。

研究ノートなど小論文

組みあがり6頁以内。タイトル・執筆者名を除き、23字×534行 (46字×262行)。見出しについては論文と同じ。

書 評

組みあがり3頁以内。著者名、書名 (サブタイトル、出版社、発行年を含む) を除き、24字×259行

(48 字×129 行)。見出しについては論文と同じ。

なお、書評のリプライについては別途記載いたします。

その他

企画論文など編集委員会からご依頼する論文については、別途記載いたします。

(4) 図・表について

コスト節約のため、図・表の数はできるだけ少なくしてください。

図は本文とは別紙にまとめ、通し番号・タイトルを付け、本文中にその挿入箇所を指示してください。とくに正確を期する必要がある図は、グラフ用紙などに作図し、その原図をご提出くださるようお願いいたします。

図・表の行数計算は以下を目安としてください。

小さな図・表は 15 行程度、

中くらいの図・表は 30 行程度、

大きな図・表は 45 行程度、

特別大きな図・表は 1 頁組み、または見開き 2 頁組を要する場合もございます。

(5) 数式・行列について

本文は 23 字組みですから、1 行に組める範囲をよく見定め、挿入方法、改行、字下がりなどを明確に指示してください。

本文と違い 2 行、3 行分必要な場合がございます。行数計算には十分ご注意ください。

(6) 注・文献リストについて

注や文献リストも本文と同じ書式で作成ください。活字を小さくしたり、行間を詰めたりは決してなさないでください。

(7) 校正について

校正は、組版上の誤りや不備を訂正することを主眼とし、書き直しなどは厳に慎んでください。

執筆者校正は、原則として初校のみとします。再校以後は校正者にお委せください。

(8) その他

編集委員会で、原稿が規定のページ数を超過していると判断した場合には、必要な削除をお願いいたします。予めご承知おきください。

原稿には、ご連絡先（郵便番号、住所、ご自宅・お勤め先の電話番号、FAX 番号、e メールアドレス）を明記してください。また、長期出張を予定しておられる方は、その期間、連絡方法などを、必ずお書き添えください。

原稿作成要領

1. 表記法

(1) 新かなづかい、新字体使用を原則とする。常用漢字を中心とし、あまりにもむずかしい漢字は避ける。

(2) 句読点はカンマ（,）とマル（。）を併用する。

(3) 傍点は当該する文字の上に付す。

(4) 引用文にはカギ「」、『』を付し、クォーテーション・マーク（” ”）は用いない。

2. 節, 項, 図・表番号

- (1) 本文中の節分け番号はローマ数字 , , …, 項分け番号はアラビア数字 1, 2, … を用いる。
- (2) 図・表の番号・見出しは, 図・表の上に 第 1 図 , 第 1 表 のように付す。

3. 数 字

- (1) 原則としてアラビア数字。数の意味がまったくないものや, 熟語・成句・固有名詞に限って和数字。経済学の歴史上慣用となっている場合はローマ数字を用いることが望ましい。

(例 1) 1 つ 1 点 1 人当たり 3g 第 2 に 第 2 次世界大戦 前 2 者 2 通り 4 捨 5 入 5・15 事件 16-17 世紀 3・4 日

(例 2) 一定 均一 一致 一般 一応 一義的 一足跳び 一切 一樣 一部分 同一視 青二才 三途の川 十分条件 八百屋 二百十日 白髪三千丈

(例 3) 第 1 四半世紀 第 2 四半期

(例 4) 第 1 部門 第 部門

- (2) ただし, 例外として概数の場合, および化合物の名称には, 和数字を用いる。

(例 5) 数十日間 数百キログラム 百数十頁 何千人

(例 6) 一酸化炭素 四酸化鉄

- (3) 本文中の数字には, 兆・億・万などの単位語を入れることが望ましい。そのさい, 位取りのカンマは省略する (ただし, 図・表は除く)。

(例 7) 33 億 8823 万人 7 万 6000 人

4. 注

- (1) 注 (引用文献を含む) は論文末にまとめて列記し, また本文中の当該箇所の右肩に通し番号を付す。注番号には片パーレンを 1), 2) … のように付ける。

(例) かつてエルリッヒがするどく主張したように¹⁾, 伝統的な法律学では・・・

- (2) 注記は, すでに I-2-(6) で示したとおり, 本文と同じ活字を用い, 同じ字数で作成する。

5. 引用文献

- (1) 最後に引用文献一覧(文献リスト)を付ける。

本文中, 注の中での引用の出所は: (著者(姓のみ)[西暦出版年]: 頁数)で示す。

ただし, 例えばマルクス『資本論』第 1 巻(MEW 版)からの引用の場合には, K.I, S. … と表記する等, 慣例が確立している場合にはその限りではない。なお, そのように表記する場合には, その旨を論文中に明記すること。

- (2) 邦語文献と外国語文献を分け, 邦語文献は著者(編者)名のアイウエオ順。外国語文献は著者(編者)名のアルファベット順にならべる。同じ著者の文献は発行年順にならべる。

- (3) 文献リストにおける文献の表記は次の順序でこれを行なう。ただし, 発行所名, 巻数, 号数, 発行年月のうち, 不必要なものは省いてもよい。

単行本: 著者(編者)名[発行西暦年], 『書物名(副題とも)』, 出版社名ないし発行所名。

論文: 著者名[発行年], 「論文名」, 雑誌名(または収録書名: 編者名『書名』 発行所名), 巻数, 号数 (発行年月)

- (4) 同じ著者の同一年における文献は, [発行西暦年] に a, b, c, … 等のアルファベットを付し, [発行西

暦年 a]のように表記して区別する。

- (5) 書物名・雑誌名は、日本語・中国語文献などの場合には『 』を付し、欧米文献の場合にはイタリック体（イタリック体指定は文字の下にアンダーラインをする）を用いる。イタリック体を用いない場合（例えばロシア語文献など）は（ ）で表示する。
- (6) 論文名は、日本語・中国語文献の場合は「 」で、欧米文献の場合には“ ”で囲む。
- (7) 外国語文献で翻訳のあるものは、()を付けて示す。
- (8) 文献リストは、すでに I-2-(6) で示したとおり、本文と同じ活字を用い、同じ字数で作成する。

6. 文献表記の事例

(1) 邦文文献

（論文）

大川 - 司[1969] 「賃金, 生産性, 物価, 構造的接近」『経済研究』第 20 巻第 4 号 (1969 年 11 月)。

辻村江太郎[1963] 「雇用構造と労働分配率」, 小宮隆太郎編 『戦後日本の経済成長』岩波書店。

《著書・編著》

野尻重雄[1942] 『農民離村の実証的研究』岩波書店。

大川 - 司・高松信清・山本有造[1974] 『国民所得』(長期経済統計第1巻) 東洋経済新報社。

篠原三代平・藤野正三郎編[1967] 『日本の経済成長 成長コンファレンスの報告と討論』日本経済新聞社。

(2) 英文文献 (イタリックはアンダーラインで表記する。)

（論文）

Leontief,W.[1974], "Structure of the World Economy," American Economic Review, Vol.LXIV, No.6 (December,1974).

Brunner, K.and A.H.Meltzer [1972], "Money, Debt and Economic Activity," Journal of Political Economy, Vol.80, No.5 (September/October, 1972).

Okuma,S.,[1910] "Summary of the History of Japan," in Shigenobu Okuma, ed., Fifty Years of New Japan, Vol.1.,Allen and Unwin.

《著書・編著》

Perlo , Victor [1963] , Militarism and Industry , International Publishers(清水嘉治・太田譲訳 『軍国主義と産業』, 新評論社, 1967 年) .

Ricardo, D.,[1951] , On the Principles of Political Economy and Taxation, in The Works and Correspondence of David Ricardo, Vol.1, edited by Piero Sraffa with the collaboration of M.H.Dobb, Cambridge University Press(堀 経夫訳『リカード全集 第1巻 経済学および課税の原理』, 雄松堂書店, 1990 年).